

ばらの丘通信

No.18 2011年12月1日
社会福祉法人つちや社会福祉会



東日本大震災 被災地職員派遣活動レポート

平成23年3月11日、東北地方を中心とした大地震があり、大津波による甚大な被害が沿岸に及びました。その後、厚生省から被災地への「介護職員等の派遣依頼」の通知が当施設にあり、職員に希望者を募ったところ、半数以上の職員の手が挙がりました。

今回は被災地へ向かった2名の職員の体験を報告させていただきます。

平成23年6月10日～16日 気仙沼市総合体育館ケーウェーブ(避難所)

体育館内には避難者370名(支援者14名程)の方々が、身を寄せ合いながら生活しています。

支援者の仕事内容には、足を洗うお湯の調達や洗濯等色々あります。お手伝いをしながら、皆様の昔話や笑顔が絶えない話を耳にしましたが、いつまでこの生活が続くのかという不安な表情も見られました。

「ここから離れられない」「仕事も無い」「食事もできない」「仮設住宅も不安がある」皆様の複雑な気持ちを聞いてやり切れなくなっても、被災地で生活する人の言葉や行動のほとんどが、人として理解出来る事でした。自分を受け入れてくれた皆様に元気を差し上げる予定が、逆に元気と力を頂きました。

この1週間で、人との絆の大切さを、身をもって感じました。

平成23年6月20日～26日 特別養護老人ホーム春園苑

老人ホームへ向かう車の中で、施設職員より震災から現在に至るまでの状況説明があり、「誰かがやらなくては」との強い意思を感じました。

老人ホームで生活する方々との触れ合いの時間の中、皆様は笑顔で迎え入れて下さっていても、心の奥にはしまい込んだ話があり、それを最後に聞かせて下さいました。

竹とんぼを飛ばしながら、「この海は穏やかに見えるが憎い!」と話してくれた方は、デイサービスを利用され、帰宅準備をしている時に地震にありました。

その方のご家族は、ご本人が自宅に戻っていると思い込み、安否を確認しに自宅に戻ったところを津波に遭い、家屋もろとも命を失いました。

「自分はここに居て…、先が短い人生なのに…」

その言葉を聞いて思わず言葉を失いました。

東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様方にお見舞い申し上げます。

また、私達を温かく迎えてくださいました、「気仙沼市総合体育館ケーウェーブ」の方々、「特別養護老人ホーム春園苑」の皆様方に、心からお礼申し上げます。

人が人として生まれた以上、思いやる気持ちを大切に、自分たちが介護の現場を守ること、ご利用者様を守ることに、困った方がいられたら手を差し伸べることを実践し、受け継いでいきたいと思っております。

特別養護老人ホームローズヒル 課長見習 田城秀樹 / 介護職員 柳瀬裕二



被災地の様子



避難所の様子



外のゴミ箱に書かれていた感謝の言葉



田城秀樹

柳瀬裕二

編集後記

2011年は忘れられない年となりました。様々な思いを込めて作りました第18号「ばらの丘通信」はいかがでしたでしょうか?これからも情報を発信しながら、皆さまと共に歩む広報誌を作成していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

広報委員一同

ボランティア紹介

つちやホームで毎週土曜日を開店する喫茶「星空」に、月2回お手伝いに来て頂いています。お二人の笑顔と会話を楽しみにしている利用者が大勢います。これからも宜しくお願い致します。



左より、鈴木久恵様、高津美智子様

第18号 平成23年12月1日発行

■発行 〒259-1205 平塚市土屋2196番地1 社会福祉法人 つちや社会福祉会 理事長 水島 米子

■編集 広報委員会 ■電話 0463(58)6677 FAX 0463(58)0429 ■URL <http://www.rosehill.or.jp>

TSUCHIYA-HOME and ROSE HILL

先代理事長の功績

水島 貞、第二代理事長が法人設立四十年を待たずして、六月二十三日に急逝されたことは、誠に惜念の感がつります。

生前は地域、行政、業界諸々の方々に、一方ならぬご指導・ご交誼を賜りましたことを、篤く御礼申しあげます。

昭和四十九年開設した軽費老人ホームつちやホームは、すでに三十七年が経過し、その間、昭和六十二年十月から第二代理事長としてゆるぎない法人の礎を築き、今日まで着実に老人福祉の道を邁進して来られました。

平成四年、五年度に特別養護老人ホームローズヒル、ローズヒルケアセンター、在宅介護支援センターを併設し、老人援助の諸々の機能を備え今日に至りました。市内でいち早く認知症の方の支えとなり、また、医療ケアのフォロワー等との組みは、どれも使命感に満ち、充実した福祉人生だった事でしょう。

平成十四年、国際品質規格ISO9001.. 2000を取得したことは、日頃よりサービスの質の向上を一番重要なポイントととらえ、顧客第一主義を経営目標の第一とした証しでした。(平成二十二年四月、認証終了)



第二代理事長
水島 貞



新理事長
特別養護老人ホーム施設長
水島 米子

新理事長あいさつ

今年には自然災害で記憶に残る年でもありました。東日本大震災は、現地はもちろん、日本国中を震撼とさせ、半年後の今日になっても復興は思うように進みません。

東北に長い雪の季節がやってきましたが、未だ生活の場所や仕事、震災前に戻れない方々が多くあることを、日本中皆が決して忘れてはいけないと思います。

また、夏季の電力使用制限も一つの例として、さまざまな無駄をなくし節約を考え実践したことは、良い教訓だったと思います。

七月六日の役員会に於いて、第三代理事長という重責を負った現在を考へることは、地域の信頼にお応えできる事業を継続推進する事です。少子高齢化がますます進み、高齢者の生活の安心、安定をどうご支援するか、課題は増々多く複雑化する傾向にあります。

一人一人に必要なサービスが地域の中に、ご家族の中に普通にあること。そんな事を考えられる職員を一人でも多く育て、つちや社会福祉会が地域の皆様といつまでもつながっている存在でありたいと考えます。

これからも引き続き沢山のご支援をお願い致します。

新理事あいさつ

ご利用者のみなさま、各関係者のみなさま、日頃よりつちや社会福祉会の活動に多くのご理解、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。また、前理事長におきましては、長きにわたり大変多くの方々にお世話になり、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

私は、このたび理事・評議員を拝命いたしました。平成七年に生活相談員として特別養護老人ホームに配属されてから十六年たち、現在は軽費老人ホームの施設長として三年目を迎え、みなさまへのサービスの充実に取り組まさせていただきます。これからは、役員としても地域の高齢福祉の一助となるよう、法人経営においてしっかりと責任を果たすべく努力して参ります。どうぞよろしくお願ひします。



理事・評議員
軽費老人ホーム施設長
水島 圭一

きずなの会

5月14日に第25回きずなの会が開催されました。家族会の定期総会と緑いっばいの中庭でガーデンパーティを行いました。心地良い風の中、ケーキバイキングと紅茶をいただきながら、音楽ボランティアの大庭先生のアコーディオン演奏に合わせて歌をうたい、素敵な時間を過ごしました。



社会福祉法人つちや社会福祉会 平成22年度 決算・事業報告

事業報告

※平成23年3月末日現在
(単位：人)

利用者数	ローズヒル		ローズヒルケアセンター	つちやホーム
	特養	通所介護	通所介護	軽費
男	7	20		10
女	47	67		38
計	54	87		48

利用者平均年齢 (単位：歳)

	ローズヒル		ローズヒルケアセンター	つちやホーム
	特養	通所介護	通所介護	軽費
男	82.2	84.8		77.8
女	86.6	85.1		87.0
全体	85.1	84.2		85.1
最高齢	104	101		97

介護度分布

	ローズヒル		ローズヒルケアセンター		つちやホーム	
	特養	通所介護	通所介護	通所介護	軽費	軽費
	人	%	人	%	人	%
自立	0	0.0	7	8.1	26	54.1
要支援	0	0.0	13	14.9	9	18.8
要介護1	2	3.7	15	17.2	8	16.7
要介護2	6	11.1	20	23.0	5	10.4
要介護3	15	27.8	19	21.8	0	0.0
要介護4	12	22.2	7	8.1	0	0.0
要介護5	19	35.2	6	6.9	0	0.0
計	54	100.0	87	100.0	48	100.0

ローズヒル 本入所待機者状況

介護度別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	不明	合計
	31	76	114	100	54	0	375

ローズヒルケアセンター・高齢者よろず相談センター

月	通所介護	居宅介護支援	介護予防支援	配食サービス
	延利用者数	ケアプラン作成件数	予防ケアプラン作成件数	延配食数
4	582	125	101	398
5	489	122	103	379
6	572	130	105	430
7	560	131	107	486
8	582	132	103	536
9	554	134	100	518
10	543	130	100	548
11	546	129	103	527
12	557	131	111	515
1	497	131	109	549
2	487	134	105	503
3	456	131	98	535
計	6,425	1,560	1,245	5,924

決算報告

財産目録

※平成23年3月31日現在

勘定科目	金額
I 流動資産	300,198,820
II 固定資産	1,122,330,703
基本財産	838,470,436
その他の固定資産	283,860,267
資産合計	1,422,529,523
III 流動負債	13,362,489
IV 固定負債	69,540,200
負債合計	82,902,689
差引純資産	1,339,626,834

事業収支計算書

※平成23年3月31日現在

勘定科目	金額	勘定科目	金額
事業活動収入	518,002,786	特別収支差額	△1,079,923
事業活動支出	485,445,012	当期活動収支差額	31,310,655
事業活動収支差額	32,557,774	前期末繰越活動収支差額	213,672,659
事業活動外収入	50,288,853	当期末繰越活動収支差額	244,983,314
事業活動外支出	50,456,049	基本金取崩額	0
事業活動外収支差額	△167,196	基本金組入額	0
経常収支差額	32,390,578	その他の積立金取崩額	0
特別収入	15,082,000	その他の積立金積立額	0
特別支出	16,161,923	次期繰越活動収支差額	244,983,314

貸借対照表

※平成23年3月31日現在

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	300,198,820	流動負債	13,362,489
現金預金	241,982,857	固定負債	69,540,200
未収金	54,478,053	負債の部合計	82,902,689
短期貸付金	0	純資産の部	
仮払金	3,737,910	基本金	740,003,825
その他の流動資産	0	国庫補助金等特別積立金	231,361,668
固定資産	1,122,330,703	その他の積立金	123,278,027
基本財産	838,470,436	次期繰越活動収支差額	244,983,314
その他の固定資産	283,860,267	純資産の部合計	1,339,626,834
資産の部合計	1,422,529,523	負債及び純資産の部合計	1,422,529,523

